

2 事前調査の方法

2-3 現状調査(寒冷地域)

3) 凍害診断調査

① 凍害診断調査の目的・調査法・対策

● 凍害が発生しているところがあるか

目的：土台・柱・外壁材などの腐朽の確認。

調査法：目視。(屋根取り合い部、開口部まわり、土台まわり、換気口まわり、一般部)

対策：凍害があれば、下地の確認が必要です。付近の構造材強度試験を実施してください。

● 雪・氷・ツララが張り付いていたところがあるか

目的：将来不具合が発生する可能性のある部分の確認。

調査法：目視または聴き取り。

対策：さらに原因追及し、不具合の発生を防止してください。

② 判定の目安

● 凍害が発生している可能性は低いです。

・①の調査結果に、問題がなかった場合。

● 凍害が発生している可能性があります。

・①の調査結果に、問題があった場合。

● 壁体外部の問題で、凍害が発生しています。

・凍害の発生している原因が外部(屋根や開口部の伝い水など)にある場合で、被害が軽微な場合。

● 壁体内部の問題で、凍害が発生しています。

・凍害の発生している原因が内部(換気口まわりや土台部)にある場合。

4) 断熱効果診断調査

① 断熱効果診断調査の目的・調査法・対策

<室内>

・壁が結露したり、壁にシミやカビがあるか

・押入れの中がジメジメするか

・冷暖房が効きにくく感じるか

[上項共通]

目的：断熱状況の確認。

調査法：聴き取りまたは目視。

対策：断熱材の状態を確認してください。

② 判定の目安

● 断熱材は正常に機能していると考えられます。

・①の調査結果すべてに、問題がなかった場合。

● 断熱材についてさらに調査する必要があります。

・①の調査結果に、ひとつでも問題があった場合。